

## ＜教育報告＞

### いかにして住民主体の健康な地域づくりが進められたか ～健康な地域づくり政策における住民と行政の変化～

#### How has the community established its own health promotion system? ～with special focus on the process of changing role of community members and of local government interaction～

合同臨地訓練 第3チーム

大塚佳子, 榊原るり子, 橋いづみ, 山本志津子  
川田葉子, 小澤宏美, 渡辺志保

#### I はじめに

WHOによって、ヘルスプロモーションの概念に沿った保健活動の展開の重要性が唱えられているが、その実践は、具体的なノウハウに乏しく、展開は難しい状況にある。

福島県大越町では、「住民の力を高齢化社会の中で生かすこと」をねらいとして、国の地域保健特別推進事業を取り入れ、白山区をモデル地区として取り組んできた。白山区では、住民と行政が協働して、健康な地域づくり政策の計画書（以下構想書という）を作成し、これに基づいた事業展開を住民自らが実施してきている。私たちは、この活動をヘルスプロモーションの実践例と捉え、健康な地域づくり政策形成への住民の関わり方と住民主体の活動が促進された要因、行政のとった役割について検討した。

#### II 対象地区の概況

対象地区：福島県田村郡大越町白山区

白山区の概要：人口800人 世帯数220世帯 65歳以上の人口割合22%

白山区の活動経過：行政は、平成5年度に、各課横断的なプロジェクトチームを作り、事前に学習や協議を行ないながら、この地区に働きかけ、支援を行ってきた。また、行政は、住民との話し合いの場（以下懇談会という）を作り、健康な地域づくりについての話し合いを継続させた。

住民は、平成6年4月に、活動の母体として、すこやかな地域づくり推進委員会（以下推進委員会という）を発足させた。この推進委員会とプロジェクトチームは、平成7年4月から平成9年2月までの期間をかけて「高齢になっても、障害を持って、生き生きと暮らせる地域」を目指して、

指導教官：岩永 俊博, 畑 栄一, 福島富士子, 谷畑 健生

そのために必要な条件や互いの役割について話し合い構想書を完成させた。構想書に基づいた活動が住民によって現在も展開されている。

#### III 目 的

白山区の健康な地域づくり政策（すこやかな地域づくり推進事業）において、「住民と行政が共に活動理念を構築して計画書を作る」と決定するまでの過程での以下の3項目を明らかにする。

- 1 住民はどのような要因に影響されて活動に参加し、主体的になっていったのか
- 2 住民と行政の意識の変化や目的の共有はなされていたか
- 3 住民主体の地域づくり政策が進められるために、行政はどのような役割や方法を取っていたか

#### IV 方 法

##### 第1部 資料からの情報収集・分析

- 1 活動記録からの活動概要の把握
- 2 住民参加についての文献検討
- 3 住民の主体的参加が促進された要因の検討（行動科学に基づいた住民参加促進要の分析）
- 4 仮説の立案

##### 第2部 面接調査による情報収集・分析

- 1 方法：調査票を用いた半構造的面接法
- 2 期間：平成11年10月13日～15日
- 3 対象者：第1～13回の懇談会に出席した推進委員（住民）29名、プロジェクトメンバー（行政職員）14名の計43名
- 4 調査内容：省略
- 5 分析方法：参加動機と参加に影響した要因、活動に対

する積極性・自主性と関係性の変化，発言の肯定・否定の分類とその経時的変化，目的123と地域特性に照らした発言の傾向について分析し，仮説の検証を行った。

### 第3部 統合的分析

資料分析と面接調査の結果を統合的に分析する。

## V. 結果および考察

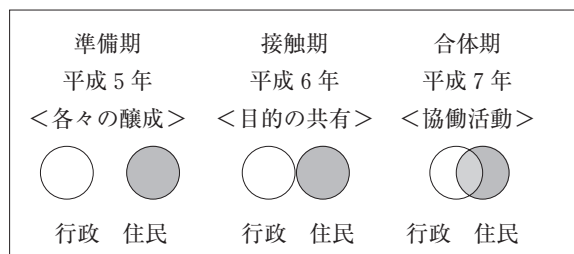
### 第1部 資料からの情報収集・分析

#### 1 活動記録からの概要把握

保健婦の活動記録や住民が作成した構想書などから白山区の活動について、平成5年度から10年度までの経過の概要を把握した。その結果、白山区の健康な地域づくり政策の住民参加の重要なポイントとして次の3点をあげた。

●事業開始時に行政で担当課を越えたプロジェクトチームが組織された。

<活動の概要からみた活動経過>



●活動の推進母体として地域づくり推進委員会が住民によって組織された。

●住民自らが構想書を作成し、主体的に活動に取り組み、現在も継続されている。

#### 2 大越町白山区の健康な地域づくりの活動経過とその特徴

活動記録からの概要把握と文献とを照合し，白山区の活動の経過を下図のようにイメージ化した。

活動初期は，行政側ではプロジェクトチームが懇談会前に学習会、会議を行い準備を進めていた。住民側は、行政からの働きかけによって会議に出席する者が多く，各個人が活動の趣旨や内容について模索していた。この時期を行政側と住民側の活動の準備期とした。

その後，推進母体が確定し，懇談会やアンケートの実施、視察、学習会を通じ、目指すべき地域の姿を住民と行政とで共有させていった時期があり，これを接触期とした。

さらに，健康な地域づくりを一体となって進めるために構想書を作成していく時期を協働活動とイメージし，合体期とした。

準備期から合体期にあたる2年間（平成5年度から平成7年4月頃）の参加意識の変化と目的の共有により，白山区の健康な地域づくり活動が促進されたのではないかと考え，この時期がその後の活動において重要だったのではないかと考え，この期間に絞って検討することとした。

### 3 住民主体の活動が促進された要因の分析・検討

資料から集団・個人レベルの意識変化に影響した要因を行動科学に基づき，先行因子と強化因子に分類し検討した。（資料1.2）

#### ●集団レベルの意識の変化

活動当初，プロジェクトチームの意識変化に影響した要因には，先行因子が多かった。住民は，活動の推進によって，自分たちの行動が認められ，そこから得られた充実感などが強化因子となり積極性が増していったと推測された。保健婦は，「行動や技術の情報」を行政や住民より早い時期に得ていた。また，学習会，視察等の話し合える場が住民と行政の目的の共有に影響していると考えられた。これらの結果から，住民と行政の意識の高まりは，保健婦からプロジェクトメンバーに影響し，最後に住民に起こっていることが推測された。

#### ●個人レベルの意識の変化

当初，参加している推進委員は，地区の役職を持つ者が多く，発言も活発で肯定的な意見が多かった。この中には，リーダー的な役割を担う者や早くから活動の意義に理解を示す者もいた。また，初期参加のみの推進委員は，出席が1.2回以下で，発言も少なく否定的な意見が多かった。途中参加の推進委員は，誘いや役員交替で参加し，次第に前向きで肯定的な発言が増え，その後の活動の中心となった。個人レベルの意識の高まりは，プロジェクトメンバーでは視察，推進委員では身近な内容に共感したことで起こっているようであった。

このように変化の時期や要因は様々だが，意識変化をもたらした出来事は集団レベルの推進要因とほぼ同じであり，集団の動きを裏づけるものであった。

### 4 結論

以上の結果から明らかとなった2項目を次章への仮説とした。

仮説1：構想書策定を決定する平成7年4月までの過程で活動の転機となった時期が2ヶ所存在する。活動の転機の第1段階は平成6年4月の推進母体の確定時期であり，これ以降参加姿勢に変化が起こっている。第2段階は平成7年4月13日の構想書策定の決定時期であり，これ以降決定への参加が起こっている。また行政の参加意識の変化は住民に先駆けて起こっている。

仮説2：住民参加を促進した要因には資料2に示す通りの具体的な出来事があり，そこには行政が深く関わっている。

### 第2部 面接調査による情報収集・分析

#### 1 結果・考察

面接調査から，参加のきっかけ，参加意識の経時的変化とその変化に関係した要因を検討し，それらに含まれない発言を別にまとめて検討を行った。その結果以下のことが明らかとなった。（資料3.4）

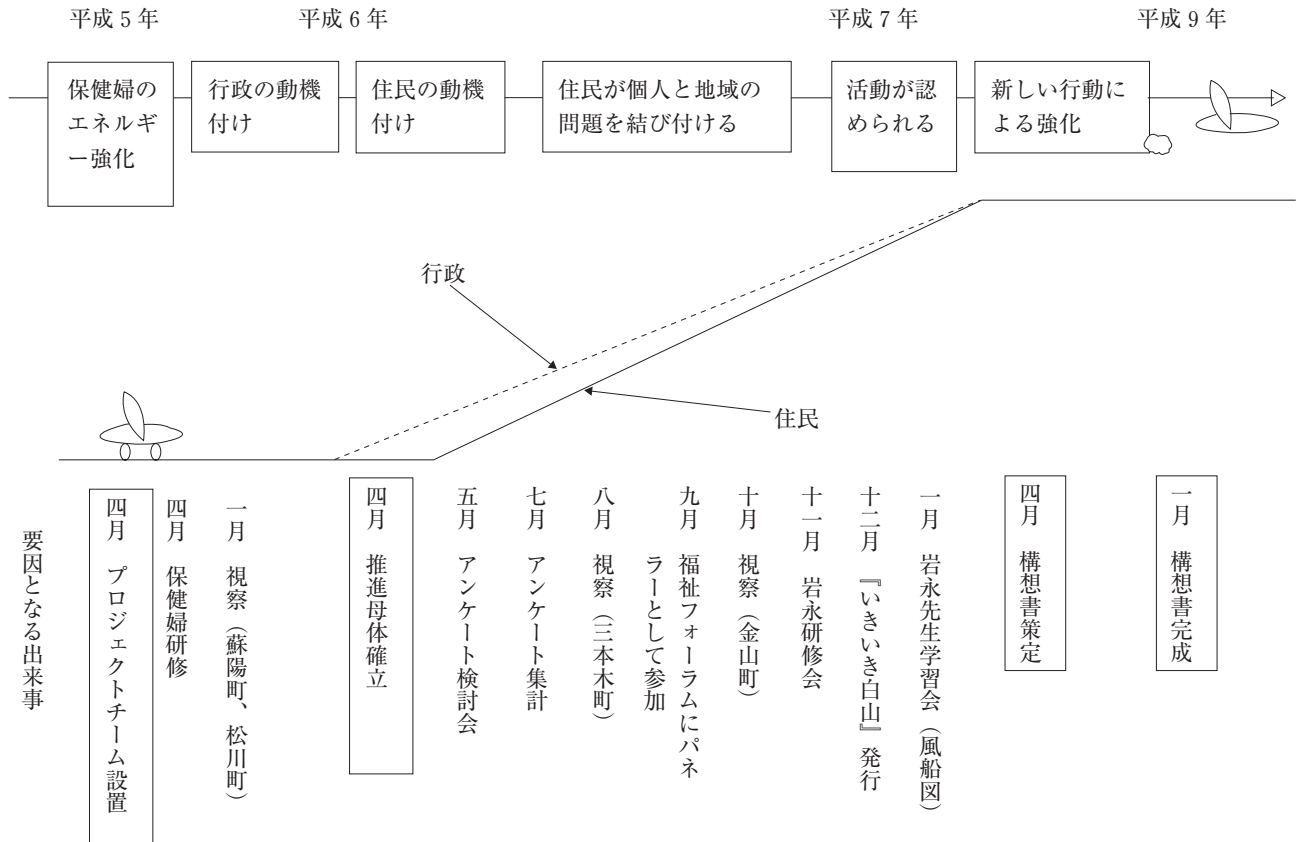
##### (1) 参加のきっかけ

推進委員の参加の外的動機は資料3のとおりである。勧誘者は，地域の中で住民からの信頼が厚い人物であることが調

資料1 参加を促進したと推測される要因

影響を与えられた人	分類	具体的な出来事	
住民に直接影響したもの	先行因子	行動に関する情報	働きかけた保健婦・先進地（金山町・三本木町）への視察
		技術に関する情報	松下岩永の研修会，学習会等方法論を学ぶ機会
		行動のきっかけ	先進地（金山町・三本木町）への視察
		環境時間的な条件	既存の地区組織・・推進委員の設置（活動母体の明確化）
		他者の助言及び行動	
	強化因子	行動自体による強化	アンケート計画・実施・集計・区の便り（いきいき白山）の発行
		自己強化	
		家族・友人・専門家からの強化	住民参加を支持した権力者・専門家・助役・松下岩永・地域振興会議員に選ばれたこと・福祉フォーラムのパネラーになったこと・老人会からアンケートについて知りたいといわれたこと・視察
		行動結果のフィードバック	地域振興会議員に選ばれたこと・福祉フォーラムのパネラーになったこと・老人会からアンケートについて知りたいといわれたこと・活動で得た充実感
		費用・時間	いきいき白山の広告掲載への住民の協力
		罰則・組織からの圧力等	モデル地区に指定されたこと
行政に直接的に影響したもの(住民に間接的に影響したもの)	先行因子	行動に関する情報	働きかけた保健婦・視察
		技術に関する情報	松下岩永の研修会，学習会等方法論を学ぶ機会
		行動のきっかけ	先進地の視察
		環境時間的な条件	活動母体の明確化・横の連携を重視したプロジェクトチームの設置
		他者の助言及び行動	
	強化因子	行動自体による強化	アンケート計画・実施・集計
		自己強化	
		家族・友人・専門家からの強化	プロジェクトチームを支持した権力者・専門家・助役・松下岩永・老人会からアンケートについて知りたいといわれたこと・視察，地域振興会議議のメンバーに選ばれたこと
		行動結果のフィードバック	推進委員の積極的变化，老人会からアンケートについて知りたいといわれた事
		費用・時間	予算の継続
		罰則・組織からの圧力等	プロジェクトチームメンバーとなったこと，配置換えがあっても継続されたこと
保健婦に直接影響したもの(住民に間接的に影響したもの)	先行因子	行動に関する情報	文献・衛生学院の公開講座・視察
		技術に関する情報	松下岩永の研修会，学習会等方法論を学ぶ機会
		行動のきっかけ	
		環境時間的な条件	活動母体の明確化・横の連携を重視したプロジェクトチームの設置
		他者の助言及び行動	助役の理解ある言動
	強化因子	行動自体による強化	
		自己強化	
		行動結果のフィードバック	老人会からアンケートについて知りたいといわれた事・プロジェクトメンバー，推進委員の積極的变化
		費用・時間	予算の継続
		罰則・組織からの圧力等	国の補助事業をとったこと
		住民と行政の目的の共有に影響したもの	話し合える場の設定

資料2 白山区な町づくり政策の推進経過の推測（飛行機図）



査の結果明らかとなった。内的動機では、目的と一致しているものとし、ないものの両方があったが、参加には、目的と動機の一一致よりも、動機の強さが影響していると推察された。活動に途中で参加した人の動機も同様の傾向だったが、活動の様子を聞いたり、活動継続者からの誘いにより参加した者が現れるなど、活動を継続する中で効果があった。活動の初期には、目的の完全な共有がなくとも、活動を推進する肯定的な何らかの動機があれば、参加が実行され続けられると考えられた。

(2) 参加姿勢の経時的変化

推進委員の参加姿勢は、視察などが変化に影響した要因として認められたが、参加姿勢の変化はこの期間には顕著ではなかった。プロジェクトメンバーの参加要因は職務上の役割意識からの参加が多かったが、視察や会議などで活動への理解が進むことで行政職員としての積極的な姿勢へと変化がみられた。

プロジェクトチームも推進委員も、住民主体で実行していく地域づくりに行政が支援しているという考え方は、初期から浸透していたようだが、お互いをパートナーとして考えるまでの変化は、一部に認められたものの全体的に認められなかった。これは、保健婦が住民の声を活動に生かすことを考えて事業を企画していたことも一因であると思われる。

プロジェクトメンバーも推進委員も同様に、活動の理解に困難感が強かったため、その理解の促進方法の工夫が、参加姿勢の変化に役立ったと思われる。その出来事には、視察、

アンケート、懇談会があげられた。

(3) 地域性・住民性など

発言内容のまとめからは、地域への愛着心（ここで暮らしたいと願う気持ち）、古くからの住民と新住民の相互理解関係、既存の組織活動の活発さとその組織の利用、組織活動のリーダー的な人物の存在、行政活動の相互把握等の特徴が読みとれた。地域への愛着の強さが内的動機に強く影響していることが推察された。

(2) 仮説の検証の視点から

1) 仮説1について

ア) 地域づくり推進委員会の発足（第1段階）

面接調査（資料3・4）の通り、住民の積極的な変化のきっかけとなった出来事の多くは、推進委員会発足以降の活動内容であり、会は、推進委員の積極的な変化の結果設立されたものではなかった。しかし、その後のより高い積極性を引き出すことに役立ったように考えられた。

一方、プロジェクトメンバーは、視察後に積極性の変化が確認でき、プロジェクトメンバーの変化は、推進委員の積極的な変化に先行して起こっていたことが明らかになった。

イ) 政策形成（構想書づくり）決定（第2段階）

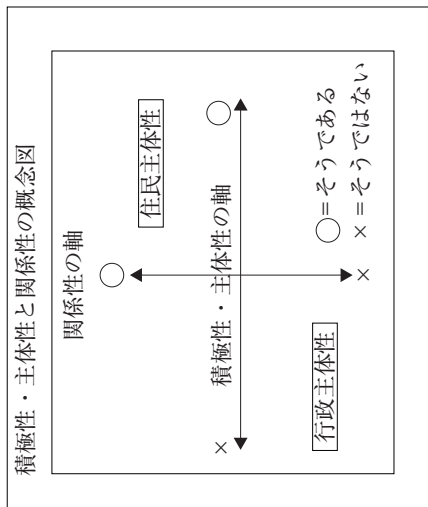
推進委員会の設立以降、アンケートの実施や広報誌の発行の決定など推進委員自らが考え、決定し、実行に移し始めていた。面接調査では、これらの活動を通して推進委員の積極性が増していったことを示す声が多く聞かれた。よって構想書策定の決定は、委員の積極性の変化の結果、プロジェ

資料3 活動参加に影響した要因

	外的動機・参加のきっかけ	内的動機：参加を決意したときの気持ち	意識の変化に関係した出来事とその理由	
プロジェクトメンバー	・役職だったから			
	・役職だったから	・地域づくり・保健医療福祉の連携の必要性を感じていた	H6・2 視察報告会	視察報告する職員の姿をみてよかったと思った
	・役職だった	・地域づくりの必要性を感じていた	H6・1 松川町視察	自分達もやらなければと思った
	・役職としての責任		H6・1 松川町視察・アンケート集計	自分達もやらなければと思った。
	・主任としての立場だった	・地域づくりの必要性を感じていた	H6・4 推進母体の確立	
	・担当職員だった	・地域づくりの必要性を感じていた		
	・課の事業だから	・地域づくりに関心があった	松下先生学習会	地域に目を向けた活動ができると感激した。
	・担当職員だった	・白山地区出身で地元のことがわかる	H6・1 松川町視察	町全体で地域づくりをしているのがとてもよいと感じた。
	・担当職員だった		H6・1 松川町視察	行政と住民の両方が力を合わせていくイメージができた。
	・課の事業だから	・自主グループに専門職として関わる必要性を感じていた		
推進委員	・上司からの任命	・地域づくりの必要性を感じていた・以前プロジェクトを組んだ経験あり	H6・1 蘇陽町視察	視察で役場職員の横の連携がスムーズにとれていて役場に活気があるイメージ。
	・代理を頼まれた	・白山地区の住民でもあった		
	・区長という立場・保健婦の声かけ	・保健婦の情熱的な気持ちに対して何とかしたいと思った	H6・8 三本木視察	保健婦と話している内に方法がわかるようになった。
	・議員の立場・保健婦と区長の声かけ	・区長と保健婦から誘われて断れなかった	H6・1 蘇陽町視察	まねはできないけどプラスになった
	・教育委員・保健婦の声かけ	・地域づくりの必要性を感じていた	H6・2 松下先生学習会	学習の必要性を強く感じた
	・保健会長という立場 ・区長の声かけ	・会合に行くと普段話せない人と話せるから行きたい。	H6・2 三本木町・蘇陽町の視察報告	理屈と実際がかみ合わなかったが、視察報告を聞いてそうなればよいと思った
	・保健会長の立場・区長の声かけ	・地域の核家族化や過疎化に危機感を持っていた		
	・消防幹部の立場・区長の声かけ	・子孫のためにも自分達が住みよい町にできるように	H6・11 岩永先生学習会	将来を見通したもので参考になった、本音で話せた
	・青年会長の立場・通知	・自分達の意見が言える場が欲しいと思っていた		
	・育成会の立場・区長の声かけ	・近所づきあいを大切にしたい		
	・母子愛育会の立場 ・保健婦の声かけ	・若い嫁が出かけやすくなるためや年寄りの一人暮らしがどうにかならないか考えたい。		
	・保健会会長の夫の代理	・若い人はいなくなるし、年寄り抱えているし、保健婦から聞いていた内容に興味があった		
	・老人クラブ会長の立場	・役場の主導でなく、住民主体の活動をしたい	H6 懇談会	何を話しているかが見えなかった
	・母子愛育会・保健婦の声かけ・通知	・強制的に入れられたが、出席しないと話が分からないから参加した		
	・組長の立場・通知	・普段から行事には参加するようにしているが、通知がきたら行かなくてはいけない		
	・組長の立場・通知	・組長だから、参加した		
	・保健会会長の立場	・内容に興味があった	H6・10 金山町視察	施設見学をしてこういうのがあったらいいなと思った
	・区長の立場		H7 構想書作成決定	H7には、やりたいことはだいたい理解できた。
	・保健会長・組長・区長の声かけ	・一人暮らし老人の介護のことを考えることはいいことだと思った	H7 金山町・構想書作成決定	
	・消防の立場・通知			
・愛育班長の立場 ・通知	・他の地区に住んでいた時から、白山区の活動に興味があったし、地域になじむいいチャンスだと思った	H6 懇談会・推進委員発言	推進委員の介護経験の話聞いて、自分に身近なことと感じた	
・区長の声かけ	・会場も近いので行ってみようと思った	H6・4 推進委員会が出た	近所に委員がいる。何かあれば手伝ってもらえると思った。	
・区長の声かけ				
・青年会副会長・役場の職員	・立場上参加しなければならない			

資料 4 活動に対する自主性と関係性（パートナーシップ）の2側面からの意識の変化の評価

プロジェクト チーム	プロジェクトを受け た時の気持ち (やる必要を 感じているか)	初めて参 加した時 の印象	その後の 印象	活動の最初		活動の後		自主性に おける最 初と後の 変化	関係性に おける最 初と後の 変化
				自主性 に対する積 極性がある	関係性 住民と共 にやっ ていこう	自主性 に対する積 極性がある	関係性 住民と共 にやっ ていこう		
役職	△	○	△	△	△	△	△	+	+
P-1	○	○	○	○	○	○	○		
P-2	○	○	○	○	○	○	○		
P-3	○	△	○	○	○	○	○		
P-4	○	○	○	○	○	○	○		
P-5	○	○	○	○	○	○	○		
P-6	○	○	○	○	○	○	○		
P-7	○	○	○	○	○	○	○		
P-8	×	×	○	×	○	○	○	+	
P-9	○	×	○	○	○	○	○		
P-10	×	×	△	○	○	○	○		
P-11	○	○	○	○	○	○	○		
P-12	○	○	○	○	○	○	○		
推進委員	推進委員を受け たときの気持ち (やる必要を感じて いるか)	初めて参 加した時 の印象	その後の 印象	主体性 があること	行政と共 にやっ ていこう	主体性 があること	行政と共 にやっ ていこう	主体性 における最 初と後の 変化	関係性 における最 初と後の 変化
S-1	○	○	○	○	○	○	○	+	+
S-2	×	×	○	○	×	○	△		
S-3	○	○	○	○	△	○	○		
S-4	○	○	○	○	△	○	○		
S-5	○	○	○	○	△	○	○		
S-6	○	○	○	○	※	○	○		
S-7	○	○	○	○	△	△	△		
S-8	×	×	×	×	×	△	△		
S-9	○	○	○	○	×	○	△		
S-10	○	○	○	○	※	○	△	+	+
S-11	○	○	○	○	○	○	○		
S-12	×	×	×	×	×	×	×		
S-13	△	○	△	△	×	※	×		
S-14	×	×	×	×	×	×	×		
S-15	○	※	△	△	×	×	※		
S-16	×	×	△	△	△	○	△		
S-17	○	○	○	○	×	○	○		
S-18	△	×	×	×	×	※	○		
S-19	○	○	○	○	×	○	○		
S-20	○	○	○	○	△	○	○		
S-21	○	○	○	○	○	○	○		
S-22	△	×	×	×	×	×	×	+	+



A = 継続参加した者  
 B = 途中で参加しなくなった者  
 C = 途中から参加した者  
 ○ = 肯定的な気持ち・そうである  
 × = 否定的な気持ち・そうではない  
 △ = 中間  
 ※ = わからない・不明

クトチームとの合意のもとに起こったと考えられた。

以上の結果、推進委員会の発足と構想書作成決定の2つの時期の前後には、活動への参加姿勢の変化は見られたが、この2つの時期が活動の転機となったかは確認できなかった。

## 2) 仮説2について

プロジェクトチームの果たした役割や方法について

### ① 参加のきっかけづくり

活動初期は、保健婦がその目的を住民に伝えて参加を促していたが、地域の事情に精通し地域の信頼を得ている人物に協力依頼をしたことが他の住民の参加のきっかけをつくる上でも重要でことであったことが明らかとなった。

### ② 参加の継続と参加姿勢の変化の促進

変化のきっかけと思われる視察・学習会・会議では、その実施の際に目的を保健婦が繰り返しており、推進委員がその説明からも理解を試みていたことが分かった。保健婦が、参加者に活動経過の要約説明や資料の提示を工夫しており、事前のきめ細かな配慮がされていた。また、保健婦やプロジェクトチームの熱心な姿勢が推進委員に影響していたことも明らかとなった。住民の参加姿勢に影響するのは、行政の助言や賛辞など直接的なアプローチだけでないことが伺える。人と人が協力して何かを行うときに、相手の熱意は活動の参加に影響すると考えられた。

### ③ 地域性の配慮

この地域は、住民主体活動に対する意識や地域への愛着心の高い地域と考えられた。このため、推進委員主体を意識したプロジェクトチームの対応が参加に影響し、身近な地域の設定が、活動のイメージづくりにつながりたのではないかと考えた。

### ④ 活動推進の母体の明確化

プロジェクトチームは、委員会の立ち上げに直接的には関与していないが、これに大きく影響した推進委員の継続参加を提案し続け、間接的に関与していた。

### ⑤ 政策決定への参加のきっかけづくり

政策決定への参加とは、住民が自己決定できることであり、その参加に至るまでには参加のきっかけづくり、参加姿勢の変化を促進することが前提条件となる。これに対する行政の役割は前述のとおりであるが、否定的意見も含めて、本音を自由に言いあうことが重要であった。このように、自己決定を促すためには、自己決定できない初めの時期から、行政が丁寧につきあい、本音を十分に聞きとって支援することが重要であると思われた。

## 第3部 統合的分析

歴史的な分析と面接聞き取り調査で得た結果には若干のずれがあった。その原因は、分析方法から生ずる欠点が前提にある。活動記録資料の分析は記入者と読み取り者の意図が反映されやすい。面接聞き取り調査は被面接者の過去の記憶に頼るため、あいまいになりやすい。しかし、この2つの方法から考察される内容の信頼性は高いと考えられるため、統合的に検討してみた。

## ●住民の主体的活動の要因

地域で任されている役割・他者（保健婦、地域の仲間等）からの呼びかけが、住民の活動への参加要因であることが明らかになった。継続の要因としては、住民に身近な問題を取り上げ将来像のイメージ化を図るなど、住民からの提案を計画に盛り込んだ活動であったこと、住民が疑問を投げかける姿勢や自由に発言できる雰囲気あげられた。

歴史的な分析から、活動への理解が促進された結果、住民の参加姿勢が変化し、自主的に推進母体を組織したと考え、この時期を重要なポイントとして捉えた。一方、面接聞き取り調査では、この時期には活動に対する不安や否定的な意見が多く、重要なポイントではなかったが、両者を併せて検討するとこのように迷いながらも住民自らが推進母体を設置し、前進することを決定したことは、この活動の進歩であったと考えられる。

## ●意識の変化、目的の共有

歴史的な分析では、初めに行政側の活動への目的の共有が行われ、その後住民との懇談会や視察などによって両者の理解が促進したと考えられた。しかし、面接聞き取り調査によると、プロジェクトチームへの参加は行政職としての使命であったことや住民側も活動への参加目的を持たない者は活動への理解が進まなかったことが明らかになった。つまり、共有が全体には不完全であっても活動は促進され、そのために参加を促す方法の工夫や参加者個々の状態を把握し、その集団の進むべき方向を見据え活動参加へ牽引していく役割を担う者の存在が必要であることが分かった。

## ●行政の役割、方法

聞き取りより、行政が住民の批判的な意見から問題に取り組んでいこうとする決意を抱くように変化した。その背景には、住民自身で問題を考えるきっかけとなる場（懇談会）を定期的に設定し、情報提供を学習会や視察により行っていることが、歴史的な分析・面接聞き取り調査から明らかとなった。住民に対しての積極的関わりもまた、住民の活動意欲を後押しした。これ以外にも、保健婦の熱意と役割（地域や住民の特徴を把握、必要としている情報をタイムリーに入手し提供する）や、保健婦に対するエンパワーメント（上役、町内外の保健婦、専門家の支援）が重要であったことが確認できた。

また、地域の中から牽引力のある者を開拓していくことも、公衆衛生従事者の支援活動の1つとして望まれている。

以上の結果を踏まえて、大越町の健康な地域づくり政策への住民参加について、活動初期の重要なポイントが以下のように明らかとなった。

- ① 地域の特徴を把握していること（社会診断）
- ② 地域づくりの必要性や方法論の理解の促進を行うこと（学習活動）
- ③ 行政の積極的な姿勢があること（活動への熱意）
- ④ 住民の主体性に配慮すること（主体性・関係性）
- ⑤ 住民と行政の協働作業が基本にあること（パートナーシップ）

住民主体の活動を進める上ではこれらの役割を行政が担

っていくことは重要である。

### 文 献

- 1) 島内憲夫訳. ヘルスプロモーション. WHO・オタワ憲章. 垣内出版. 1990
- 2) 白山区いきいき健康づくり推進委員会. いきいき白山構想書. 1997
- 3) リップナック J, スタンプス J. ネットワーキング. プレジデント社. 1986 ; 23 - 41
- 4) チュルネア M編. “開発援助と人類学” 勉強会誌. 開発は誰のために. 社団法人日本林業技術協会. 1998 ; 243
- 5) 宮坂忠夫. 地域保健と住民参加. 第一出版株式会社. 1986 ; 14
- 6) Wolfgang Bichmann, Susan B. Rifkin, Mathura Shrestha. Towards the measurement of community participation. World health forum. 1989 ; 10 : 467-472
- 7) 沢田清方. 小地域福祉活動. ミネルヴァ書房. 1991 ; 23
- 8) 家田重晴,高橋浩之,畑栄一. 保健行動の包括的説明モデルの提案. 中京大学体育大学論叢. 1991 ; 32 : 47 - 67
- 9) 北澤毅, 古賀正義 編著. <社会>を読み解く技法-質的調査法への招待-. 福村出版. 1998
- 10) 岩永俊博. 我が国におけるヘルスプロモーションの実践と課題. 公衆衛生研究. 1999 ; 48 : 187 - 193